

資料 1

新秋地総第 547 号
令和 7 年 6 月 27 日

秋葉区自治協議会会長
渡邊 彩 様

新潟市秋葉区長 長崎 忍
(秋葉区役所地域総務課)

区政運営にかかる評価について（参考意見聴取）

本市では、年度当初に区長による「区組織目標」を策定し、その方針に基づいて、区政運営の重点取組事項を設定しています。また年度末には、その取り組みに対して、区長による自己評価を行い、次年度以降の方針策定等に反映させております。

この自己評価を補うとともに、効果・効率的な事業実施や次年度予算の編成の参考にさせていただくため、貴自治協議会に下記事項について区長が行った自己評価に対する意見を求める。

記

- 令和 6 年度 秋葉区組織目標
- 令和 6 年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

資料 1-1

資料 1-2

※参考資料

- 令和 7 年度 秋葉区組織目標
- 令和 7 年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

資料 1-3

資料 1-4

令和6年度 秋葉区組織目標

組織名	秋葉区	部長	区長 長崎 忍
組織の目的・方向性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かしたまちづくりを推進します。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標※	<ul style="list-style-type: none"> ・職業を理由とした県外との転出入数 ・市民の声をしっかりと聞く体制が整っていると思う市民の割合 ・住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができると思う高齢者の割合 ・新潟市は子育てしやすいまちだと思う保護者の割合 ・観光入込客数 ・地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数 		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

秋葉区では、新潟市総合計画 2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。

この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 「アキハスマプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、移住者増のための仕組みづくりに取り組みます。
- 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。
- 3 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。
- 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。また、新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。
- 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を市民と協働で行います。また、秋葉公園リニューアルの方向性を区民の声をしっかりと聞きながら検討を行います。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

重点目標の達成状況	目標数	5 件	達成数	1 件
<p>【重点目標 1】達成状況 =一部未達成</p> <ul style="list-style-type: none">・移住定住の取組について近隣都市（三条市・阿賀野市）との意見交換を行いました。・他都市の事例を参考に移住相談者カードを修正し、業務フローを改善しました。・各コミ協で把握している空き家情報を共有し、移住検討者への相談対応の強化を図りました。・1月4日に銀座・新潟情報館「THE NIIGATA」で秋葉区のプレイヤーとの移住+物産フェアを移住コンシェルジュと共に催して150人超の来場者を迎えて、移住・交流・関係づくりを行いました。				
<p>【重点目標 2】達成状況 =一部未達成</p> <ul style="list-style-type: none">・前期アンケート 平均評価点4.34点、各評価項目とも平均評価点4点以上・後期アンケート 平均評価点4.47点、各評価項目とも平均評価点4点以上 アンケート数は100件を超えた（今まで80件程度）・課内にアンケート結果を周知 各係で課題を共有し、改善策を検討し改善に向けた取り組みを実施				
<p>【重点目標 3】達成状況 =一部未達成</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症に関する普及・啓発活動として、講演会を開催するとともに、区だよりやFMにいつによる周知、庁舎や区バスヘポスター掲示を各1回行ったほか、新津図書館において関連書籍を集めた企画展示を実施。計13回の普及・啓発活動を行いました。・発達障がいをテーマに、障がいへの理解を深めるため講座を開催し、48名が参加しました。・療育教室などを利用する子どもの保護者を対象に、保護者支援講座（10月2日から全6回）を開催し、4名が参加しました。・地域の子育て情報の提供や絵本のプレゼントを行う子育てサポート「CoCoアキハ」が、産前または産後のお母さん宅を訪問しました。（訪問希望者の割合は母子手帳交付の68.5%）・保育コンシェルジュ等が子育て支援センターなどへ16回出向き、「出張！妊娠・子育てほっとステーション」を開催し、参加者へ保育園入園などの子育て情報の発信を行いました。・地域のお茶の間等に対してフレイル予防講座の活用をすすめるとともに、健康教育の依頼があった際には積極的にフレイル予防の内容を盛り込みました。また、地域のイベント等では子どもに対しても普及啓発を実施し、延べ1,575人と増加しました。住民サポートの研修会を実施し、「体操のポイントを教えてもらい良かった」「茶の間で活用したい」等の感想がきかれ、地域での活動支援につながりました。・小学校6年生90人が「ジュニアドック（生活習慣病健診）」を受診し、小学4～6年生とその家族20組54人に「からだづくり講座」を実施した結果、生活習慣の重要性について理解が得られた割合は9割以上となりました。				

取組結果

【重点目標 4】達成状況 = 一部未達成

地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。また、新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。

●わくわく石油練習事業

- ・より理解を深めてもらうため事前学習を行うなど、関係者との協議、調整を図り準備を進め、5小学校（結、小合東、小合、金津、新関）：155人が参加しました。

●里山未来創造事業（マウンテンプレーパーク）

- ・33回開催、1,565人（平均47人）が利用しました。
- ・SNSの活用、区だよりの発信に加え、PRチラシを継続配布し広報周知を図りました。
- ・前期は体験会の実施などにより目標以上の利用者数となったが、夏場の猛暑日、冬場の天候悪化などの影響から屋外での活動が避けられたため利用者の減少が著しかった。

●アキハ「鉄道物語」

- ・J R、商店街連合会、観光協会、鉄道資料館等との連携により観光案内所の運営を行うとともに、S L再運行25周年記念イベント等を実施しました。
- ・レンタサイクルを運営しました。
- ・S L運行に合わせた観光案内所の開設時間を拡大しました。
(運行日は30分早く開館)

●新潟薬科大学等との連携事業

- ・各種団体の協力、連携により新潟薬科大学キャリア形成実践演習を実施しました。

【重点目標 5】達成状況 = 目標どおり達成

・市民協働による環境整備活動

関係団体と連携し、「あきはSDGsトライ新津川クリーン作戦」などの環境整備活動を計3回実施、合計441人が参加しました。

◇あきはSDGsトライ新津川クリーン作戦；11月3日参加者300人

◇新津川水仙球根植栽；11月3日参加者60人

◇あきはSDGsトライ秋葉公園クリーン作戦；11月16日参加者81人
(子育て世代に呼びかけを行い、スタンプラリーを同時開催)

・秋葉公園リニューアルに向けた取り組み

「秋葉公園魅力アップ事業」で、支障木の伐採や伐採木の利活用を試行しました。職員研修（クヤクショソーシング）を活用して区内部で「秋葉公園リニューアルコンセプト（案）」を作成しました。

【重点目標 1】

- ・首都圏での移住＋物産フェアを開催し、秋葉区への移住を P R
- ・U. I ターンの促進のため大学との連携を図る

【重点目標 2】

窓口対応などの課題について効果的な改善策を講じ、検証を行うため、再度アンケートを実施する。引き続き利用者から納得感を感じてもらえる窓口を構築していく。

後期窓口アンケート 2月17日～2月28日実施予定

【重点目標 3】

- ・認知症に関する講演会の開催のほか様々な啓発事業を継続し、認知症への理解が深まる機会の提供に努めます。
- ・区民の関心が高い精神障がい、発達障がい等をテーマに講座を開催し、障がいへの理解が深まるよう努めています。
- ・療育教室などを利用している子どもの保護者が、悩みや心配ごとを共有できる場を提供し、不安感や孤立感の解消を図っていきます。
- ・引き続き「子育てサポートによる訪問活動」や「出張！妊娠・子育てほっとステーション」等の事業により、地域の子育て情報の発信に努めます。
- ・身近な地域のお茶の間等で、住民が主体となり健康づくり活動が行えるように支援を行います。住民サポートへの研修は、地域での活動支援のために引き続き実施します。
- ・3年間のジュニアドックの結果から、総合判定では要指導・要医療となった児童が約半数見られました（精密検査後、異常なしを含む）。今後は得られた結果を、世代を問わず各種保健事業や地域のイベントなどにおいて周知を図り、運動を含めた健康的な生活習慣の実行が出来る様周知・啓発を図っていきます。なお、ジュニアドックは一定の成果が得られたと判断し本年度をもって終了とします。
- ・からだづくり講座については生活習慣に関して家族ぐるみで意識が改善する効果があり、今後は保護者に向けての別事業で実施します。

【重点目標 4】

- ・広報の強化、事業運営などの改善検討を行い、次年度の企画に反映させることで、各利用者の増を図ります。

【重点目標 5】

- ・市民協働による環境整備活動

市民協働での環境整備活動に多くの方々に参加いただき、持続的な活動を実現するためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要です。関係団体と連携し、多方面での広報・周知活動を進めていきます。

- ・秋葉公園リニューアルに向けた取り組み

作成したリニューアルコンセプト（案）を基に、地域関係者と意見交換を行い、「にぎわいゾーン」を中心とした活性化や利便性向上に向けた検討を進めていきます。

令和6年度 秋葉目標に掲げた重点項目の指標一覧

No.		組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R6目標	R6結果	取組名称(事業名)	概要			
1	地域総務課	「アキハスマプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、移住者増のための仕組みづくりに取り組みます。	移住検討者及び移住者からの相談件数	30件	11件	アキハスマプロジェクトVol.3	・AKIHA移住コンシェルジュを設置し、秋葉区への移住検討者からの相談対応のほか、移住者からの相談にも対応します。	△	・移住定住の取組について近隣都市(三条市・阿賀野市)との意見交換を行いました。 ・他都市の事例を参考に移住相談者カードを修正し、業務フローを改善しました。 ・各コミ協で把握している空き家情報を共有し、移住検討者への相談対応強化を図りました。 ・1月4日に銀座・新潟情報館「THE NIIGATA」で秋葉区のプレイヤーとの移住+物産フェアを移住コンシェルジュと共に開催して150人超の来場者を迎えて、移住・交流・関係づくりを行いました。	・首都圏での移住+物産フェアを開催し、秋葉区への移住をPRしていきます。 ・U・Iターン促進に向け、さらに大学との連携を促進します。
			移住コンシェルジュの人的ネットワーク構築と会議開催	12回	32回		・移住相談窓口を市特設webサイトやSNSにより情報発信します。 ・ネットワーク構築により相談者への対応を強化します。		・8月に移住体験ツアーのアテンドをし、東京農業大学の学生等と意見交換を行い、また区の魅力を発信しました。 ・区内の民間企業や県などと意見交換を行い、移住ネットワークの強化を図りました。 ・10月に移住コミュニティミーティングを開催し、移住ネットワークの拡充を図りました。 ・11月に地域交流センターで東京農業大学成果発表会を行い、関係人口創出について意見交換を行いました。	・構築した人的ネットワークを移住コンシェルジュが主体となって、今後の業務に活かせる仕組みづくりを進めます。
2	区民生活課	日常業務の改善を進めるとともに、効率的な業務を行うため、職員提案を促し窓口業務の改善に努め、市民満足度の一層の向上を図ります。	窓口アンケートの実施 窓口アンケートの平均点(点)	平均点4.5点以上	平均点4.4点 (前期4.34) (後期4.47)	窓口アンケートの実施	窓口アンケートにより、市民ニーズを把握し市民満足度の向上を図ります。	△	窓口アンケートの項目を見直し、年2回(前期9月、後期2月)実施しました。 目標である平均4.5点には届きませんでしたが、係別集計では一部目標を達成しました。 また、アンケートにおいて指摘があった事項の改善に努めました。	窓口アンケートに寄せられた意見において、接遇に問題があることの内容が寄せられていることから、接遇対応の改善を図り、利用者から納得感を得られる窓口対応を構築します。

令和6年度 秋葉目標に掲げた重点項目の指標一覧

No.		組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R6目標	R6結果	取組名称(事業名)	概要			
3	健康福祉課	「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。	障がい者理解講座の参加人数(人)	40人	48人	・障がい者理解講座 ・保護者支援講座	・障がいへの理解を深め、地域で支える仕組みづくりを考える機会とする ・療育教室などを利用している子どもの保護者を対象に、悩みや心配ごとを共有できる仲間づくりを推進することで、不安感や孤立感の解消を図る	△	・新津健康センターにおいて、保護者支援講座を10月2日から11月6日の間、全6回の日程で実施。4人が参加した。 ・秋葉区文化会館において、「発達に障がいのある子を持つ親世代の老後を考える」をテーマに障がい者理解講座を3月1日に開催し、48人が参加した。	・令和7年度も精神障がい、発達障がい等をテーマに講座を開催し、障がいへの理解を進めていく。
		子育てに関する講座等の開催回数(回)	小さな森の広場 79回 パパママ銭湯 24回 ディケアルームHUGママ24回 育ちの森講座	小さな森の広場 79回 パパママ銭湯 24回 ディケアルームHUGママ24回 育ちの森講座	合計 168回 合計2,131人参加	・子育てサロン ・産前産後リフレッシュ事業 ・子育て講座	・地域で安心して子育てを行うための、ライフステージに応じた切れ目ない支援 ・上記に関する情報の発信 (当該事業や育ちの森で開催する子育て講座の実施回数など)		・小さな森の広場を79回(1,044人参加)、パパママ銭湯24回(241人参加)、ディケアルームHUGママ24回(382人参加)、育ちの森講座41回(464人参加)、合計168回(2,131人参加)開催し、切れ目ない子育て支援を実施した。	引き続き各種事業において、子育て情報の発信し、子育て世帯を支援していく。 ・組織目標としては今年度で終了。
		子育てサポーターの訪問希望割合(%)	母子手帳交付件数の80%以上	母子手帳交付件数の68.5%	母子手帳交付件数の68.5%	・子育てサポーター訪問事業	・産前と産後に各1回の訪問を実施し、地域の子育て情報の提供や絵本のプレゼントを行う。 ・昨年減少しした訪問希望者数を回復させるため、区だよりやSNS等を活用し、事業の周知を図る。		・母子手帳交付件数404件、訪問同意件数277件、訪問同意率68.5%(交付件数は、他区交付分、転入分を含む)。 ・子育てサポーターの訪問により、出産や育児の不安解消につながった。 ・区外転出予定者や第二子以降の出産などの理由により、訪問同意率が伸び悩んだ。	・引き続き制度の周知に努め、子育てサポーターによる産前産後の母子支援に努めていく。 ・子育てサポーターの新規募集を区だよりで行い、訪問体制を強化していく。 ・組織目標としては今年度で終了。
		出張「妊娠・子育てほっとステーション」による子育て情報等の発信件数(回)	育ちの森12回 たんたん・ どんぐり・ ぽかぽか 各1回 合計15回	合計16回 (合計167人参加)	合計16回 (合計167人参加)	・子育て支援情報等の発信	・保育コンシェルジュ等が、子育て支援センターなどへ出向き、ほっとステーションのPRや、入園、子育てについてその場で相談に応じる。		・育ちの森12回(125人参加)、たんたん1回(11人参加)、どんぐり1回(8人参加)ほか、当初予定にはなかった公民館からの依頼が2回(23人参加)あり、計16回(167人参加)訪問し、様々な子育て相談に応じることができた。	・突発的な訪問要請にも臨機応変に対応し、保育コンシェルジュ等によるアウトリーチ型の子育て相談会を引き続き開催していく。 ・組織目標としては今年度で終了。
		フレイル予防事業の参加延べ人数(人)	1,100人	1,575人	1,575人	・フレイル予防教室、及び講座の開催 ・地域のイベントでのフレイル予防啓発事業 ・運動普及のため住民サポーターへの研修開催	・子どもを含めたフレイル予防に取り組む (フレイル予防の取り組み団体への支援)		・地域のお茶の間等で積極的にフレイル予防の普及啓発を実施し、延べ1,575人が参加した。 ・また、地域のイベント等では子どもに対しても普及啓発を実施した。 ・住民サポーターへの研修会を10月28日に実施した。「体操のポイントを教えてもらい良かった」「茶の間で活用したい」等の感想が聞かれ、地域での活動支援につながった。	・より身近な地域で、高齢者が歩いて行ける地域のお茶の間やイベント等で、フレイル予防やラジオ体操の啓発を行い、住民が主体となって健づくり活動が行えるよう、令和7年度も引き続き支援を行う。 ・住民サポーターへの研修も、地域での活動支援のため、引き続き実施する。

令和6年度 秋葉目標に掲げた重点項目の指標一覧

No.		組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R6目標	R6結果	取組名称(事業名)	概要			
	健康福祉課	「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。	事業参加者の生活習慣の重要性に対する理解度(%)	90%	児童89.1% 保護者97.9%	小学校6年生が対象 ・ジュニアドック(生活習慣病健診) ・からだづくり講座	子どもの頃より自分の健康に関心をもち、家族ぐるみで生活習慣の振り返りを行う。		・ジュニアドックは6~8月の12日程(土曜含む)で実施し90人が受診した。 ・からだづくり講座は11月24日(日)に実施し、20組54人が参加した。 ・アンケート結果から、児童は目標に届かなかったものの、保護者は目標を上回り、親子で生活習慣の重要性について考える良い機会となった。	・3年間のジュニアドックの結果から、総合判定では要指導・要医療となつた児童が約半数見られた(精密検査後、異常なしを含む)。今後は得られた結果を世代を問わず各種保健事業や地域のイベントなどにおいて周知を図り、運動を含めた健康的な生活習慣の実行が出来る様周知・啓発を図っていく。なお、ジュニアドックは一定の成果が得られたと判断し本年度をもって終了とする。 ・からだづくり講座については生活習慣に関して家族ぐるみで意識が改善する効果があつたことから、引き続き令和7年度も別事業で実施する。
4	産業振興課	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	参加者アンケートにおける里山施設等への再訪意向(%)	50%以上	58%	・わくわく石油楽習事業	・石油の世界館友の会と連携し、里山にある石油資源を活用した小学校6年生向け講座の実施 ・里山文化(自然、施設、歴史等)に関する事前学習の実施 ・学校教科に即したテーマ(地層)を内容に加え、より地域を身近に感じてもらう	△	・各校および石油の世界館友の会に事前協議を行い円滑な事業を実施した。 ・区内小学校5校(結、小合東、小合、金津、新関)から155人が参加し、アンケート結果より58%の再訪を望む声を頂いた。 ・アンケートでは、学習内容や講師の説明に対し約7割から「わかりやすい」の評価を得たほか、館内展示に關し過半数から「興味がわいた」と評価を得た。	・実施事業及びアンケートの集計内容を基に、これまでの事業効果を整理する。
			Akihaマウンテンプレーパークの1日平均利用者数(人)	50人	47人	・里山未来創造事業	・里山にある秋葉公園の自然を活かした、子ども達が自由に遊べる場「Akihaマウンテンプレーパーク」の開設 ・SNS等を活用した子育て世代への発信力の強化 ・遊びの内容(手法や遊具)の充実	△	・33回開催、1,565人(平均47人)が利用した。(12月開催日の天候悪化) ・区たより、市報、LINEの発信に加え、PRチラシ配布等、広報を強化した。 ・体験会のほか、遊具の交換やウッドデッキを新設し、環境整備を実施した。	・SNS等の発信を強化し、利用者増加を図る。 ・利用者増加の底上げを目指し、利用者や体験会参加者の声を聞き、事業反映への検討を行う。
			観光案内所「あ！キハ」1日平均利用者数(人)	60人	104人	・アキハ「鉄道物語」	・JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携した観光案内所(新津駅東口)の開設 ・レンタサイクルの貸し出し ・鉄道資料館等との連携企画の実施 ・鉄道に関連した取り組みや事業へ	△	・SL運行日の観光案内所開設時間を拡大した。 ・鉄道資料館との連携によるSL25周年企画展を実施した。 ・鉄道イベント開催時に記念カードを配布した。	・各種関係先との連携事業の継続により、認知度向上と利用者拡大に向けた取り組みを図る。
			新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。	大学等との連携事業数	8事業	・新潟薬科大学等との連携による事業の実施	新潟薬科大学等の教員、学生との連携による事業の実施	○	新潟薬科大学等の教員、学生との連携による事業の実施 ・新津本町商店街アーケード清掃活動 ・朝日の森の会の活動①② ・朝日の森づくり体験 ・市民協働による里山整備事業 ・あきはSDGsトライ！ 新津川除草・クリーン作戦 ・鉄道イベント①② ・新津第一小学校文化祭	・今後も新潟薬科大学をはじめ関係者と連携し、各種調整を行うことで事業の継続を図る。

令和6年度 秋葉目標に掲げた重点項目の指標一覧

No.		組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R6目標	R6結果	取組名称(事業名)	概要			
5	建設課	新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区SDGsトライとして市民と協働で行います。	参加人数(人)	350	441	人と自然が調和した美しい景観の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と協働で遊歩道周辺や秋葉公園の除草や刈払いを実施 ・秋葉公園リニューアルに向けて市民からの意見を聴取 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働による環境整備活動 「あきはSDGsトライ新津川クリーン作戦」などの環境整備活動を計3回実施、合計441人が参加しました。 △あきはSDGsトライ新津川クリーン作戦:11月3日参加者300人 △新津川水仙球根植栽:11月3日参加者60人 △あきはSDGsトライ秋葉公園クリーン作戦:11月16日参加者81人(子育て世代に呼びかけを行い、スタンプラリーを同時開催) ・秋葉公園リニューアルに向けた取り組み 「秋葉公園魅力アップ事業」で、支障木の伐採や伐採木の利活用を試行しました。 職員研修(クヤクショソーシング)を活用して区内部での「秋葉公園リニューアルコンセプト(案)」を作成しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働での環境活動により多くの方から参加いただき、持続的な活動とするためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要です。関係団体と連携しながら多方面での広報・周知活動を進めます。 ・リニューアルコンセプト(案)を基に、地域関係者と一緒に、「にぎわいゾーン」を中心とした活性化や利便性向上に向けた検討を進めていきます。

組織名	秋葉区	区長	長崎 忍
組織の目的・方向性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かしたまちづくりを推進します。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標*	<ul style="list-style-type: none"> ・職業を理由とした県外との転出入数 ・市民の声をしっかりと聞く体制が整っていると思う市民の割合 ・新潟市は子育てしやすいまちだと思う保護者の割合 ・観光入込客数 ・地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数 		

*政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

秋葉区では、新潟市総合計画 2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。

この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

1 「アキハスマプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、「移住フェア」などの開催による移住促進に取り組みます。
また、秋葉区内を走る区バス・金津線・下新線について、こどもや若者が気軽に利用できる機会を創出し利用促進を図ることで、地域全体で支える持続可能な公共交通ネットワークを構築します。

- 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。
- 3 こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。
- 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。また、新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。
- 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区 SDGs トライとして市民と協働で行います。

*重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

取組結果	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	
今後の方向性					

令和7年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

No.		組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	地域総務課	「アキハスマプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、「移住フェア」などの開催による移住促進に取り組みます。	移住検討者を対象とした相談会や体験会の開催(3回) 移住コンシェルジュの人的ネットワーク構築と会議開催(12回)	15回		アキハスマプロジェクト「移住フェア」	・AKIHA移住コンシェルジュによる移住検討者への相談対応のほか、秋葉区の魅力や特色も併せて発信します。 ・移住相談窓口を市特設webサイトやSNSにより情報発信します。 ・ネットワーク構築により相談者への対応を強化します。			
		秋葉区内を走る区バス・金津線・下新線について、子どもや若者が気軽に利用できる機会を創出し利用促進を図ることで、地域全体で支える持続可能な公共交通ネットワークを構築します。	対象路線バスを利用した学生の乗車人数	4,400人以上		こども・若者公共交通乗車促進事業	・対象路線バスの運賃を、中学生以上の学生を100円、小学生を50円で乗車できるようにします。 ・利用促進を図るため、区内の学校にチラシを配布し、区だよりやSNSなどでモデルプランを掲載します。			
2	区民生活課	日常業務の改善を進めるとともに、効率的な業務を行うため、職員提案を促し窓口業務の改善に努め、市民満足度の一層の向上を図ります。	窓口アンケートの実施 窓口アンケートの平均点(点)	平均点4.5点以上		窓口アンケートの実施	窓口アンケートにより、市民ニーズを把握し市民満足度の向上を図ります。			
3	健康福祉課	こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。	居場所に参加する1回当たりの児童・生徒の平均人数	20人 (合計180人)		・アキハ移動式こどもの居場所づくり事業	・金津コミュニティ振興協議会、金津小・中学校等と連携しながら、既存施設を活用し、安心・安全に過ごせる新たな居場所づくりを行い、こどもたちに様々な遊びや学びを提供します。			

令和7年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

No.		組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
4	産業振興課	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	Akihaマウンテンブレーイパークの1日平均利用者数(人)	43人		・里山未来創造事業	里山にある秋葉公園の自然を活かした、子ども達が自由に遊べる場「Akihaマウンテンブレイパーク」を開設します。 ・SNS等を活用した子育て世代への発信力の強化 ・体験会や利用者アンケートの実施			
			観光案内所「あ！キハ」1日平均利用者数(人)			・アキハ「鉄道物語」	JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携した観光案内所(新津駅東口)を開設します。 ・レンタサイクルの貸し出し ・鉄道資料館との連携企画の実施 ・鉄道に関連した取り組みや事業への支援			
			新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。	大学等との連携事業数	8 事業	・新潟薬科大学等との連携事業	新潟薬科大学等の教員、学生との連携による事業を実施します。			
5	建設課	新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区SDGsトライとして市民と協働で行います。	参加人数(人)	400		人と自然が調和した美しい景観の保全	・市民と協働で遊歩道周辺や秋葉公園の除草や刈払いを実施 ・秋葉公園リニューアルコンセプト(案)を踏まえ親子や多世代が安心して楽しめる公園の創出			